（別紙4）　　平成　30　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400295		
法人名	有限会社　笑苑		
事業所名	グループホーム　笑苑		
所在地	〒818-0122　福岡県太宰府市高雄1丁目3664番地258　　℡ 092-918-0808		
自己評価作成日	平成30年06月27日	評価結果確定日	平成30年09月03日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号　　℡ 093-582-0294
訪問調査日	平成30年07月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高齢者が年々増える中、昨年4月から1ユニットから2ユニットへ増設となり利用者様・ご家族様との交流が増え、笑顔が絶えないサービスを提供しています。
身体的拘束を厳禁を目標に掲げ、主治医、施設長、職員が密に連携しながら支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「笑苑」は、「住み慣れたわが街で人生の最終章を自分らしく心豊かに生きていただくお手伝い」を理念として開設された、2ユニット（平成29年4月に増設）のグループホームである。自治会に加入し、防犯パトロールや清掃活動、行事への相互参加、ボランティアの受け入れ等、地域との交流を深め、認知症介護指導者である代表を中心に、認知症サポーター養成講座や声掛け見守り模擬訓練に取り組み、色々な場で認知症について積極的な発信を続けている。看護師である代表の他にも看護師を配置し、協力医療機関、訪問看護師とも連携し、24時間安心の医療体制が整い、これまで多くの看取りに取り組んでいる。職員の育成に力を入れ、働きやすい職場環境の中、定着している職員が、代表と管理者の下でチームワークを発揮し、和気藹々とした雰囲気で、一つの大きな家族のように利用者のその人らしい暮らしを支えているグループホーム「笑苑」である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25.26.27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20.40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38.39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32.33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、毎朝理念を唱和し、理念の意義を理解しています。利用者様が住み慣れた場所で人生の最終章を迎えて頂く様な実践を目指している。	ホーム理念と5項目からなる職員心得を、毎朝申し送り時に唱和し、共有している。職員は常に笑顔を心掛け、和気藹々とした家庭的な雰囲気の中で、利用者が自分らしく心豊かに暮らす事が出来るよう、支援に取り組んでいる。また、代表を中心に地域への発信を続け、地域に開かれたグループホームを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	資源回収や地域の防犯パトロールと地域の一員として参加しています。施設での餅つきのイベント等に地域住民の方々と啓発活動を行っています。	自治会の一員として、防犯パトロールや清掃活動に参加している。地域の行事に利用者と参加したり、ホーム行事に地域の方の参加もある。歌や踊りのボランティアの受け入れ等、交流を深めている。認知症介護指導者である代表が、声掛け見守り模擬訓練を公民館単位で実施し、認知症の啓発に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	声かけ模擬訓練・ネットカフェ等を開催し認知症の方々との交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月毎)に開催し事業報告・利用者様の状況について意見交換をしサービス向上に活かしている本年より身体拘束適正化委員会を開催	地域密着型事業所として運営推進会議を重視しており、行政、地域住民、家族がそれぞれの立場で利用者を支えていくための会議を目指している。利用状況、活動、ヒヤリ・ハット報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、出された意見や情報をサービスの向上に活かしている。	詳細な資料を基に、運営推進会議が行われているが、ゲストを招いてのミニ勉強会や避難訓練、試食会、レクリエーション体験等、テーマを工夫して、更なる会議の充実に向けた取り組を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村・地域包括センターと情報交換を行い連携して困難な事例や苦情につながる事例の場合。利用者への支援を行っている。	代表や管理者は、行政や地域包括支援センターと日頃から密に情報交換を行い、疑問点があればすぐに尋ねる等、協力関係を築いている。代表は、行方不明者捜索模擬訓練や認知症サポーター養成講座を実施し、地域や行政と協働して、認知症の啓発活動に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的(2ヶ月毎)に身体拘束適正化委員会を開催し身体拘束ゼロを目指したケアを実践している。	今年度より、3ヶ月に1回の委員会の開催と年2回以上の研修が義務化されたことを受け、身体拘束についての内部研修を実施し、定期的な身体拘束適正化委員会の開催に向けて取り組んでいる。職員は、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関する、研修の実施を行っていて、拘束がない暮らしの支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度の仕組みを理解し利用者・ご家族様・身寄りのない利用者等問い合わせがあった時は、関係機関に紹介できる様につとめている。	代表が市民後見人の講師を務めているため、折に触れ権利擁護の制度について学ぶ機会を設けている。制度に関する資料を用意し、必要時には制度が活用出来るよう支援している。現在、別館に制度を活用している利用者がいるので、制度についての理解を深めるため、閲覧用の資料を事務所に置いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族・施設長・職員が同席し、不安・希望・疑問点に対し納得して頂くまで説明する様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の利用状況報告書を発行し暮らしぶりをお伝えしている。体調変化連絡事項等があればご家族と密に連絡するように努めている。	意見箱を設置し、家族の面会時、運営推進会議、年1回の家族会等、家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴く機会を設け、ホーム運営や介護計画に反映させている。また、毎月家族に送付する利用状況報告書と2ヶ月毎に発行する広報誌「えがお」で、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のカンファレンスを開催し意見交換をし利用者が住み慣れた環境で心豊かに過ごして頂く様に支援している。	月2回、カンファレンスを開催し、職員の意見や要望が出しやすい雰囲気の中で話し合い、議事録に記録して回覧し、欠席者も会議の内容が共有できるよう工夫している。代表は様々な記録物に毎回コメントを載せて、職員を労い励ましている。出された案件は代表まで届き、速やかに反映される風通しの良い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格は持っていても邪魔にはならない代表者の言葉。資格取得には手当を支給する心配りがある。職員一人ひとりの特技を把握し働きやすい職場環境に取り組んでいる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集は、資格より人柄・介護に対する考えを優先している。常勤・非常勤にかかわらず研修会に参加する機会を設けている。職員が働きやすい現場づくりに努めている。	外部研修受講や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働けるよう支援している。また、管理者は職員の特技や能力を把握した上で役割分担を行い、職員一人ひとりの諸事情にも配慮し、職員が支え合いながら長く勤められる支援体制が整っている。職員の募集、採用にあたっては制限を設けていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を尊重し職員全員が連携し身体拘束のない住み慣れた現場づくりに取り組んでいる。	人権に関する外部研修を受講した職員による伝達研修を行い、全職員への周知を図っている。また、カンファレンスの中で、利用者の人権を尊重した介護サービスが提供出来ているかを確認し、ホームの理念でもある、利用者が自分らしく心豊かに暮らせるよう、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤にかかわらす、内部・外部研修を平等に設けている。実践者研修、リーダー研修、喀痰吸引等を受講し利用者の支援に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会・社会福祉協議会行政・福祉ネットワークを等を通じ研修に参加し情報交換し利用者への質を向上する取組を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご家族の要望・不安を傾聴し、寄り添うケアを提供し自分らしく暮らせる居住空間の取組を行っている希望があれば体験入所も取り入れている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時に近況報告をし、不安・困っている事等を傾聴し共に利用者を支えていく関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族に必要な支援を見極め施設内外だけでなく他のサービス機関との連携も対応するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念念頭に利用者には家族との暮らしと同様に信頼関係を深める様に情報の共有に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には施設の行事や家族会に参加して頂き交流の機会を持てる様に支援している。共に利用者を支えていく関係づくりに努めている。また、入居時には、『施設は姥捨て山ではない』事を伝え一緒に歳を重ねて頂く様伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人・親戚の面会時は落ち着いて話せる所にお茶を提供し自由に面会できる様支援している。	利用者の馴染みの人の面会を歓迎し、また来て頂けるよう声を掛けている。入居者前まで掛かっていたかかりつけ医の継続や、その方の住んでいた地域の行事や近所のお通夜に参加する等、利用者のこれまでの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者同士の談話が途切れない様に職員が状況を見ながら介入し馴染みの関係が途切れないよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方・亡くなられた方のご家族との交流も大切にしている。グリーフケアの一環として職員が全員通夜に参列させて頂き寄せ書きなどお渡しした。お陰様で数年来のお付合いもさせて頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い不安な思いや、意向を傾聴し、職員全員が共有し実現に向けて取り組んでいる。	職員は、日常生活の中で、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有し、実現に向けて努力している。また、意向表出が困難な利用者については、家族に相談したり、職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草を観察しながら、利用者の思いや意向を汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わり、入居前の環境・生活歴の情報を傾聴し、その人らしい暮らしをして頂く様努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の変化を情報交換しながら現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画を検討し、計画の見直しが必要になった時は、家族・主治医と相談しながら検討し、現状に即した介護計画になる様に努めている。	利用者、家族の意見や要望を聴き取り、主治医や看護師の意見を聞いて、月2回行うカンファレンスの中で検討し、職員の意見を反映した介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を定期的に確認し、結果を踏まえて、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はわかりやすく、利用者の状況や体調変化を申し送りやカンファレンスを利用し、スタッフ間で情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族とのコミュニケーションの中で個人のニーズを支援実行することを心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事やボランティアとの交流を通して豊かな生活につながるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけの医の往診・受診を支援している。日頃の身体・生活状況の情報を提供し適切な医療がうけられるよう支援している。	契約時に、利用者、家族の希望を聴いて主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診支援を家族と協力して行っている。代表が看護師である事が、利用者や家族にとって大きな安心であり、ホーム内看護師、訪問看護とも連携しながら、安心して適切な医療が受けられる体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長と看護師がおり介護士と共に健康管理に努めている。又主治医や訪看との連携が密であり必要に応じて他の医療機関との情報交換も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院医療機関への情報提供や面会にも努め病院と情報交換を行っている。また退院後の生活がスムーズに再開できるよう、医療機関内の地域連携室と情報交換も行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針については契約時に説明し、状態に合わせて家族に状況報告と要望を聞きながら事業所の理念や対応についてもご理解いただき利用者・家族・主治医との話し合いにより全員で方針を共有しながら最後まで自分らしく過ごして頂けるよう支援している。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に説明し、了承を得ている。「人生の最終章を、自分らしく、心豊かに生きていただく」ことを理念に掲げ、職員は、利用者の終末期を全力で支援し、これまで多くの看取りを行っている。終の棲家として、利用者と家族が安心して任せる事の出来るグループホームである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基本に急変時や事故発生時の対応について勉強会や施設長より職員のレベルに合わせた個別指導を行い実践に活かせるよう取り組んでいる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力のもと、防災訓練を行い職員全員が対応出来るように努め近隣住民への声かけも行っている。	年２回、避難訓練を実施し、１回は消防署の参加がある。ユニット毎の避難経路、一時避難場所、併設事業所の職員との協力体制も確認している。また、発電機と米、塩等を大量に備蓄し、災害時には地域の方のためにもホームを開放できるよう準備している。	２ユニットになり、新人職員も多く入職したので、非常災害時に職員が慌てずに対応出来るよう、特に夜間想定の避難訓練を繰り返し実施する事を期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者の人格を尊重したケアや言葉使いに留意し、思いに寄り添い尊厳を持って対応するように申し合わせている	職員は、人権や接遇、身体拘束や虐待について研修で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重した介護サービスに取り組んでいる。また、日々の関わりの中で、利用者の誇りや羞恥心、プライバシーへの配慮ができているかを話し合い、利用者が安心してその人らしく暮らせるホームを目指し、支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしく過ごして頂けるよう声かけや希望を耳に傾け意思表示が困難な方には、ご家族からの情報を元に職員本位にならないよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、無理強いすること無く、利用者の意思希望を尊重し穏やかに過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好み、らしさを尊重し、一緒に洋服を選んだり、準備するよう心がけている。また定期的な散髪もあり、毎朝の整髪の支援を心がけている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員が利用者の好みや要望を取り入れた献立を考え苑の畑で採れた野菜の料理や精米したてのご飯を提供をしている。誕生日や各種行事等では献立に変化をつけて食事を楽しめるようにしている。利用者の誕生日には、ご本人の希望の食事を提供している。	「美味しいご飯を食べてもらいたい」との代表の思いから、玄米をその都度精米し、ホームの畑で採れた野菜を使い、利用者の嗜好を採り入れ、朝食はホーム職員、昼食と夕食は1階厨房の調理職員による美味しい食事を提供している。誕生日の食事、おやつ作り、外食等、「食」を楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を把握し、スキムミルクや紅茶等好みに合わせてお茶だけでなく水分補給を心がけている。また、食欲低下時には、食べたい物、口あたりの良い物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が声かけ・見守り・介助をして清潔を保持している。また、定期的に歯科医師及び衛生士が来所し、指導管理を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンにあわせて早めの声かけや見守り、誘導を行いトイレでの排泄・自立に向けた支援を行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄する事を基本とし、職員二人介助によるトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合わせた間隔で声掛けや誘導を行い、リハビリパンツやパットの使用方法等の検討も行っている。また、トイレでの立ち上がりが出来るように、生活リハビリの中で下肢筋力の強化に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人差もあるが、排泄パターンを把握しマッサージや運動、食事量や水分量の不足がないか便の性状にも心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回個浴を行っている。利用者の体調希望に合わせて2人対応など快適な入浴になるよう対応している。 体調不良で入浴できない場合は、全身清拭を実施し、全身状態の把握に努めている。	週3回の入浴支援に取り組んでいる。重度化された利用者が多い中、職員の頑張りにより、出来るだけ浴槽に浸かって貰っている。入浴を拒否する方には、時間をおいて、声掛けを工夫する等して無理強いのない支援に取り組んでいる。入浴しない時は、陰部洗浄と清拭を必ず行い、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や心身状態に合わせる安眠できるように日中の生活リズムを作り利用者の使い慣れた物を身近に置き安心できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬文献で服薬種類、副作用を確認し変化があればすぐに主治医へ報告、検討し全職員が認識するようにしている。薬には作用と副作用がかならずあることを全職員が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野を生かす支援に取り組んだり、施設の温室や、四季折々のお花見、初詣地域の夏祭りなどの外出も行っており気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や地域でのイベントなどに積極的に外出するようにしている。天候の良い日は散歩や買い物やドライブなどの支援を行っている。	外出レクリエーションを企画し、季節毎の花見（梅、桜、ツツジ、ポピー、薔薇等）や買い物、ドライブに出かけている。また、気候の良い時期を利用して、散歩や日光浴等、外気に触れる機会多く取り入れ、利用者の気分転換に繋げている。病院受診の帰りに図書館で本を借りたり、好きな物を買い物する等、個別の支援も行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者には少額のお金を持って頂き、事務所で預かり管理をしている。利用者には希望があれば渡せるようにしています。買い物への同行も支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族、知人への電話や手紙を出せるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的な雰囲気でのんびりと過ごせるように工夫している。また、清潔・整理整頓に努め季節の飾り付けや施設長栽培の蘭や花を飾り四季感を出している。	窓の外にはゴーヤや朝顔のグリーンカーテン、室内には観葉植物や季節の飾り、利用者の書道の作品等が飾られ、家庭的で温かな雰囲気の室内である。また、職員は、小まめな清掃、換気を行い、利用者が気持ちよく過ごせるよう心掛けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は清潔・整理整頓に努め季節の飾り付けや花を飾り、家庭的な雰囲気でのんびりと過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力して頂き、馴染みの物を持ち込み個性のある居室づくりに取り組んでいる。また利用者の状態や希望に合わせた模様替えも行い居心地よく安心して過ごせるような工夫をしている。	利用者が使い慣れた家具や身の回りの物、仏壇や家族の写真等、大切な物を、家族と相談しながら持ち込んで貰い、その方らしい居室となるよう工夫している。温度や湿度の調整、換気にも気をつけ、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ浴室には手すりを設置し安全に身体機能が活かせるような環境整備をしている。また見守り・声かけ誘導をさりげなく行いできるだけ自立した生活が送れるよう努めている。		